

# 牧野井おぼろ

Nさん（64歳、旧九頭神・現牧野本町一丁目在住）

△その1▽

1989. 6. 1号

## 九頭神九軒

九頭神は阪より古いということですね。私が子供の時は、「九頭神九軒」いうて、九軒ぐらいしかおまへなんだですね。今は学生のアパートや住宅建ってますけど、昔は田んぼや畑ばかりあったところです。牧野本町の住宅地も、芋畑やなんかあったとこで、後から開けたとこですからなあ。今から思うと想像でけんようなとこですわなあ。

そやけど、招提の方へも阪の方へも九頭神から出はった家があります。姓は、三つしかおませなんだ。

## 九頭神廢寺のこと

九頭神には、昔大きなお寺があったんですね。岡田さんという先生がこの辺のことを調べてはりますけど、この本町の住宅地から大忠さん（酒店）、女子医専（関西医大）にかけ

て、奈良の東大寺に匹敵するような大きな建物があったということですね。岡田さんは私の近所へ来て、足で踏んで歩幅を測定したはりました。この辺の工事の時、瓦がいっぱい出てきました。今はガラクタの瓦しか出てきいしまへんけどね。

私とこの畑のあたり、「堂の前」て言いまんねん。この畑からも出ましたが、いちばんよう出たのは今、日之出屋の店の出たるとこ（本町通り、村上ビルの上り）、あこに山がおまして、よおけまとまったものが出ました。私らも子供の時分、出てきたものを下駄箱の上に置いたりしてましたし、歯科大の考古学してはる人が、ようそれをとりにきたはりました。外大に勤めてはった上山先生いう人が私の一級下で幼なじみですけど、「先生、こんなもん私の畑から出ましたわ」「ほなら僕におくんはるか」いうて、みかん箱に入れて持って帰らはりました。それから間なく、先生が亡くなりはりましたなあ。

## 川はきれいかった

私とこの畑の残ってる辺りは、私の子供時分は招提の領分ですわ。今の東牧野町に、昔一町ほど田んぼあったんですけど、昭和三十四、五年頃府営住宅に買取になって、残った分や見返りにもろた田んぼが交北にあたりでやりますねん。



秋の穫り入れの頃

水は今池の用水  
でまかかってま  
してん。

鎮守川の上の

方は沼田ですわ。

私とこの田んぼ

にも昔はヨシみ

たいなのが生え

てましてん。今は下水が流れてますけど昔はきれいな水で、

ジャコなんかとったら食べられましたんですわ。今は魚も何

も棲めんような川になってますけど、きれいなもんでした。

穂谷川は堤防登らなあかんし、ジャコいよらしまへんでした

けど、この川はよおけいまして。この辺の田んぼにもドジョ

ウヤタニシがよおけいましてんで。

### 室戸台風

昭和九年の室戸台風、あれは私が牧野小学校行つた時に

きました。そしてあの学校が倒れたあくる日、牧野村と招提

村が合併して殿山町になって、牧野小学校が殿山第一小学校

になって、やはり台風で壊れた招提小学校を場所を移して建

て直して殿山第二小学校にして、私らは学区がかわって殿山

第二に行きました。

この台風の時、私の受け持ちの伊東先生という女の先生が  
亡くなりましたな。

### 新館がこけた

九月二十一日のことですわ。今でしたら、情報がテレビや  
ラジオで放送されるさかい学校行くことなかったやろけど、  
その時分は「えらい風やなあ」言いもって学校行つてました  
からな。ほんで校舎がこけて生徒も先生も下敷きになったと  
いうことすなあ。私はその時四年生で、伊東先生のお父さ  
んは牧野村の村長でした。

こけた校舎は、西東(東西に

建っているということ)の二階

建でしたわなあ。その頃御池と

いう池がありまして、池の前に

も南北の平屋の教室があつて、

私らそこにいたんですわ。西東

の二階建の校舎の方に職員室な

んか皆あつたんですわ。結果的

には平屋の方はこけしまへなん

でん。そやけど二階建の下に職

員室がおましたよって、「そこ

へ行け」言わはりましたん。と



第一室戸台風で倒壊した

枚方警察署

ところが「逃げよ！」と言わはったもんで逃げましてん。裏が芋畑と茶園で、そこへ逃げた。逃げた直後にその校舎がこけましてん。

夏やから襦袢一枚でんが。その茶園の下でうずくまってましたから、壊れた校舎の壁土でシャツがどろどろになりました。そのまま帰ってきましてなわ。

「工兵隊を呼んでこい！」

南から吹いてきた風やから北に逃げたんやけど、逃げた直後にこけた。伊東先生のそばには、五、六人の女の子と一緒に死んでたらしいでっせ。

その時伊東村長さんが、前の白川助役（以前枚方市の助役をされた）に「工兵隊を呼んでこい！」と言わはって、その命令する声があるすごうえらい声やったんで、白川助役がかなり後ですけど、「あの時の伊東さんの声は今も耳に残って」と話してはったのを覚えてますわ。その時白川さんは、牧野村の役場の下っ端やったんでしょあ。

ほんで呼びに行ったけど、電話も不通やったのか、自転車か何かで高槻の工兵隊を呼びに行ったんでしょあかなあ。そんな話を後で聞いてます。

工兵隊が来て、先生二人程と生徒十人余りが死んだん違いますか、それを掘り起こした。結果的には、二階建の校舎に

《解説》

室戸台風では、大阪府下の学校の建物が、枚方同様大きな被害を受けた。倒壊した中に新築校舎が多かったのは、老朽化して取り壊した建物の古材を使っていたためで、財政難が被害を大きくしたと言える。この被害がまた貧しい町村の財政をも直撃した。牧野村と招提村が合併（殿山町となる）したのも、学校修復の財源を確保することが単独の村ではできなかったためであった。（『枚方市史 第四巻』参照）

第一室戸台風による死傷者と被害（昭和9年9月下旬調べ）

学校名	学校規模		建 物 破 害	死 亡		重 傷			軽 傷		被災後不足した教室			臨時 見込	急用 費
	児童 数	学級 数		職員	児童	職員	児童	使丁	職員	児童	普通 教室	特別 教室	講堂		
枚方	759	16	一部倒壊												2,000
蹉跎	379	8	半壊							4	6	1			700
川越	425	8	半壊							1	8	4	1		6,000
山田	379	8	破損							4	4	1	1		1,000
牧野	600	15	半壊	2	15	1	27	1	8	44	10	2	1		5,000
招提	204	7	破損								3				1,700
樟葉	314	7	破損								4				1,000
津田	451	9	破損								2				200
菅原	394	8	半壊								5				500

1. 大阪府「大阪府風水害誌」により作成。  
 2. 牧野校での死亡児童15人の詳細は以下のとおりである。母一女1、母二女2、母三男3、母三女3、母四女1、母五女1、母六女1、高一男1、高一女2（殿山第一小学校「100周年」）

集めたのが悪かったということになりましたね。そやけど、職員室があったから、そこへ集めはりましたな。

### 米麦中心

その頃の農業は、夏は米、裏作は麦や菜種で、だいたい米麦ですわ。エンドウやとか玉ネギなんか、戦中はずくりませなんだなあ。食糧というたら米と麦ですもんねえ。戦前はそやっだし、戦中戦後、朝鮮戦争（一九五〇〜一九五五）の時分までは食糧は今みたいな状態やなかったですもんねえ。

朝鮮戦争の頃までは、供出がありました。麦なんかもぜんぶ供出でしたよ。出さなあきまへん。㊦（「まる公」、「公定」の意）の代金もらえるけど、安いわけですわ。供出して家の飯米とって、残りのごく僅かがいわゆる闇米ですけど、それも少なおましたで。余裕はなかったですわなあ。

畑の方はサツマ芋なんかつくりましたけど、みな供出ですよ。ひどい時、野菜物までみな供出に出しました。戦後一、二年ですけどね、トマトなんかでも供出やった。農協へ出して消費地に送って、ちょっとキズのいったのは「産地自由販売」いうて売りに出しました。

今は、米つくったらいかん、「減反」なんて言ってるのは、隔世の感がありますなあ。その頃は「食糧増産」言うてた。ちよっとでも畑できるところは、サラリーマンでも誰でも畑つ

くって、学校の校庭でも芋つくったり、そんなもんですわ。

（続く）

供出の風景



# 女野井のぼん

Nさん（64歳、旧九頭神・現牧野本町一丁目在住）

△その2▽

1989. 7. 1号

## 牛で耕す

昔は耕耘機なんてあらしまへんよって、牛と唐犁たがすまですわ。二軒で一頭牛飼ってる家もありましたし、私とこみたいになとまった反別たべあるところは一軒で一頭飼ってました。一軒で一頭飼うことを「丸牛」、二軒で一頭飼うことを「仲間牛」、そんなこと言うてました。

私は今でも牛と唐犁があったら、田鋤たすきできますで。あれわりかた今の耕耘機よりも合理的なのは、土を天地返しできるんですわ。土が（上と下と）返りますわな。それがよろしんですわ。畑でも使いました。北海道なんかはみな馬やったらしいですな。

## 今の中国にそっくり

私とこでは、昭和四十年にかかる頃まで牛飼ってましたよ。

その時分はもう耕耘機もでてましたから、丸牛やのうて仲間牛でしたけどね。今年になってから、私、中国の映画見えてましてね。中国の百姓のことが映ってまして、昔の私とこの百姓とおんなしことやってましたな。

昭和三十年頃親父が亡くなってからトラクターいうやつができました、トラクターに唐犁つけて牛の代わりさせとったんですけど、中国の映画見とったら、中国の発展したところはトラクター使ってましたなあ。トラクターは前に田を耕す唐犁つけてね、うしろにリヤカーみたいなんついたら牽引できますわなあ。それに乗って運転するんですけど、怖いんですわ。あれでよう怪我しましたわ。クラッチ入れてもジューッときやしまへんねん。ガクツといっぺんにきまんねん。軽トラみたいに加減できしまへんねん。この辺交通量が多いから、怖いですわ。

## ええ牛は高い

今、仕込んだ牛いませんわな。田の中に入れて役牛やくぎゅうに使うような牛がいやしまへん。ただ生まれてそのままおっきいた牛ではあきまへんねん。手綱たづなでたいたら左へ行っころとか引つ張つたら右へ行っころとか、田んぼで自由自在にできしまへんわ。いわゆる博勞はくろういうのが各所にいましたわなあ。仕込んだ牛は値も高たかおましたで。使いよいですわ。私とこら

江戸時代の牛耕風景  
昭和三十年代まで各地で  
見られた。



### 牛は辛抱でけん

牛は大事にしました。名前なんかはつけませんで。餌は夏は草。農作業の間見つけて草茹らなしゃあおまへんわなあ。

夏草茹って余分のやつを干し草にしましたなあ。それをワラとまぶして冬にやってみました。それから麦のしやげいうて麦のしやいた（ローラーで押しつぶした）ものに米糠をまぶし

飼うてた牛は二、三百円ぐらいや思いますわ。招提のある人がとび抜けたええ牛買った言うてたのが、五、六百円ぐらいでしたかなあ。

戦後やったかなあ、牛盗られたいうのありました。牛盗って密殺しよりまんねん。ちょいちょいそういう事件おましたなあ。農協で保険掛けとったからちゃんとお金もろたとかいう話も聞きましたなあ。食糧難ですもんねえ。

て牛の餌にしてみました。人間は辛抱でけても牛には餌はやらなあかん。踏ませ（敷きワラ）でもよう替えて手入れせんとね。家によっても、よう手入れの行き届いた家と行き届かん家とおましたわなあ。

見かけは豊かになっただけ

昔は、阪でも電話があるなんていうたら、お医者さんとこと駐在所ぐらいしかおませなんだ。そんなことですよ。ラジオがあるぐらいのもんですわ。戦後百姓やって、アメリカの百姓は車やトラックに乗ってていうことを聞きましたわなあ。私らそんなこととでもでけんと思てましたけどなあ、今は私らみたいなこんな百姓でも、軽トラクがなけりゃ百姓でけんみたいに思てますわなあ。こんなことは戦後のその時分からは想像でけしまへんわねえ。それでも、今は経済的には田んぼ維持してるだけで、肥料代と機械化で百姓では食べていかれしまへん。豊かになつててことはなつてるんやけど、見かけだけみたいな気がしまんなあ。

俵も手で編んだ

田の除草は、掻きいうて押すやつおますわなあ。供出の時 はみな俵でしょう。俵編まないけませんわなあ。あれも、一重のんと二重のんとあつて、普通は二重でみとかわとありま

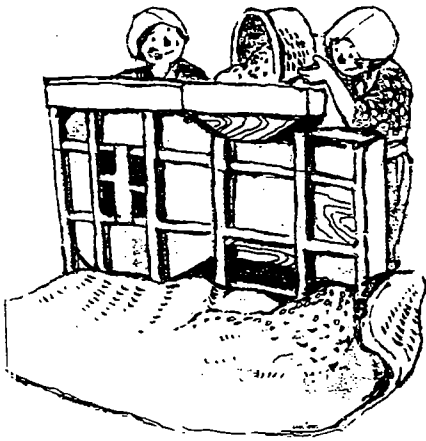
して、一俵は十六貫（六十kg）、柘目にしたら四斗ですわなあ。

むしろにふご（もっこ）、皆家で編みました。お爺ちゃんが俵編んだりむしろ編んだりふご作ったり、ぞうり作ったりお爺ちゃん器用でしたからねえ、ぜんぶやりました。親父もぞうりぐらい作りましたかなあ。そんなこと夜なべ仕事ではったように聞きましたけど、人手あるところはそんなにせんでもいけましたよって、家によってまちまちですわ。

女の人はつづつたりしはりましたなあ。田んぼに着ていく野良着なんかでもつき当てたりしはりましたわなあ。明治か

とうみ  
唐箕

風のもみでもみとごみを選り分け、もみをすって玄米にする。



ら大正、昭和も戦後しばらくはそんなふうだったと違いまっか。

### 柴買いに交野へ

煮炊きは、うちらはワラ焚いたり、薪や枝をしばったのを買ってましたなあ。この辺は山ないさかいに、私らよう牛車で私部（現交野市）まで行きました。もちろん歩いて行きまんねん。朝早よ行ったら、向こで柴積んで、昼からの二時頃には帰ってこれましたで。親類がありましたよって、そこで柴わけてもうて。

行くのは冬の農閑期に行きましたなあ。夜明け時分に行て、柴いっぱい積んで、もづえの柴を五、六十束積んで戻って来ました。よつはま（四輪の荷車）を牛に引かせるんですわ。

### 下肥を買う

今みたいに金肥、つまりお金出して買う肥やおませんでした。チツソ、リン酸、カリは配給ですがな、反別によってね。それではとつてもやっついていかれしまへんよって、下肥ばかりですわ。下肥で、麦でも米でもせいぜいつくってましたなあ。硫酸とか、化成肥料やおまへんわ。単肥でんなあ。総合肥料出てきたのは、戦後だいふたつてからですなあ。

あの時分、肥料屋が舟で牧野の下島の浜に下つてきまんね

ん。京都の方から。人糞でんなあ。野壺にあけまんねん。○  
○さんがやっってはった時分でも、トラック一杯だいぶしまし  
た。トラックがタンクになってまんねん。野壺にあけて、  
発酵しますわなあ。発酵して色が変わって黒うなりますねん。  
想像するほど汚ないもんやおまへんで。硫酸配給でもらうで  
しょ、それを茶碗に一杯入れて、まぶして（混ぜて）使って  
まんなあ。三回ぐらいその肥をやらなとれしまへんねん。

### 堆肥が最高

それと堆肥でんなあ。ワラに牛糞やら下肥かけて、またワ  
ラ積んで、これを三段四段積んで水かけて発酵させるんです  
わ。発酵すると熱うなってきた、湯気たったりしてました。  
今やったら硫酸や石灰チッソ入れたりしてるとみたいですわ。  
味のええもんつくろう思たら、いわゆる有機農法いうか、  
油粕とか骨粉とか、やっぱり堆肥が最高でしょうな。手間と  
労力がいりますわな。よっぽど熱心でないとなかなかできし  
まへん。池の土揚げたのもよう使いましたな。今でも菊つく  
ったはる人はやっはりまんない。

しかし、もう時代遅れの百姓ですわ。今は液肥ばかりで野  
菜つくったりしてますし、台湾からでも中国からでもどんど  
ん野菜入ってきますわなあ。百姓はむずかしいですわ。

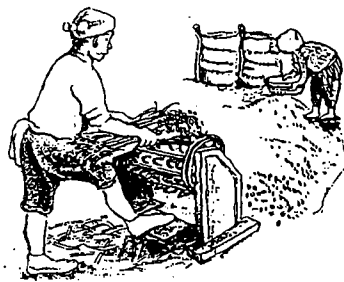
### 有機農法がいいけれど

消費者と結びついて都市農業  
として生き残る道もあるんやな  
いかと思えますけども、それだ  
け熱心にやろうという人がおま  
せんわなあ。スーパーに農業使  
てない専門のコーナーがあつて  
売れてますわなあ。消費者あつ  
ての農業ですわなあ。

私よりももっと熱心にしたはる人は、今でもキュウリやナ  
スビつくるのに、油粕とか骨粉とか有機質のええ肥料ありま  
すわなあ、ですけれども、苺、トマトでも、堆肥でしたはり  
ますわ。あれに勝る肥しおまへんで。堆肥でつくったキュウ  
リなんかはね、ぜんぜん味違いますわ。汁気も甘味もおまん  
なあ。そうした方が病虫害にも強いんですわ。もちろん、堆  
肥だけやなしに有機質の肥料や化成肥料も入れますけど。

### 過酷な宅地並課税

そこでもっと真剣に考えたらでんなあ、生き残る道もぜん  
ぜんないということでもないんですわな。しやけど、また一  
面考えたら行政面では、都市の農地は市街化地区の農地と調



脱穀の風景



整地区の農地と線引きしてるでしょ。市街化地区の農地は、ここは百姓するところ違うと、宅地並課税いうのんやってますわなあ。私とこの農地は、片鉾のけたらぜんぶ市街化区域に入ってるまんねん。今は営農申請してね、それも二回目の五年の満期がここ一、二年で切れまんねん。そしたらそこは宅地並みに課税するぞと、そうなってますわなあ。そしたらその農地は、税金が一反何十万てかかるんちゃいますか。一町やったら、年に三、四百万ですわ。そしたら維持できしまへんわなあ。これも矛盾してまっしゃろ。都市農業として生きのびていけないというのも、そこにちょっと無理な話があるんですわ。どういふふう調整してくれはるのかというのが一つの問題ですわ。やる気があっても、税金払お思たら、土地売らな払われへんですからねえ。

市街化区域の農地は、市役所の資産税課もしょっちゅうパトロールして見て回ってますわなあ。それで営農してないよなやり方やったら、「これはあきまへんでえ」「宅地並課税かけまっせ」言うてきますわなあ。そやから、うちらでもそこそこ農地らしいにしかかないけません。後継者の問題も農村部でもむつかしいみたいやから、なかなか難儀なことですわ。

(了)